

こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成27年4月12日

第42号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114

『今回は前回の続きの話じゃったな。クニマッスン
は、谷村仲重明は京都から来たんじゃないか？と
考えたんじゃないか。わしも、谷村家の子孫から
話を聞く前には、クニマッスンが想像したように
思っておったんじゃ。しかし、かなりの知識人であ

った重明が、放浪の旅に出て忍

野村の東円寺に流れ着いたと
考えるよりも、江戸の寛永寺の
流れで、東円寺に来ることにな

ったと考える方が自然だとは思わんか？重明のお墓には、没

年齢が記されてあったんじゃ。41歳で亡くなったということや
重明の子供である誠の生年月日から逆算すると、誠は重明
が39歳から40歳の間の子供なんじゃよ。忍野村に来た年齢
を没年齢から逆算すると、30代後半だったのではないかのう。』
『講左衛門さんの言う通りかもしれないでまっすん。江戸時代の30代後半は、今の50代ぐらいと
思っていていいでまっすん？江戸から来た重明は、それからどうなったでまっすん？』

『あくまでも想像じゃ。重明は、東円寺の記録に残る中村鍊吉重明と名乗ったことを想像すると、
谷村家に戻る気はなかったのかもしれない。子供が授かった年齢はけして若くはなかった。生まれ
た子供が男子だったことで、谷村家に戻る決心をしたのかもしれないな。』

『なぜでまっすん？中村と姓を偽って東円寺にいたでまっすん？訳がわからないでまっすん。』

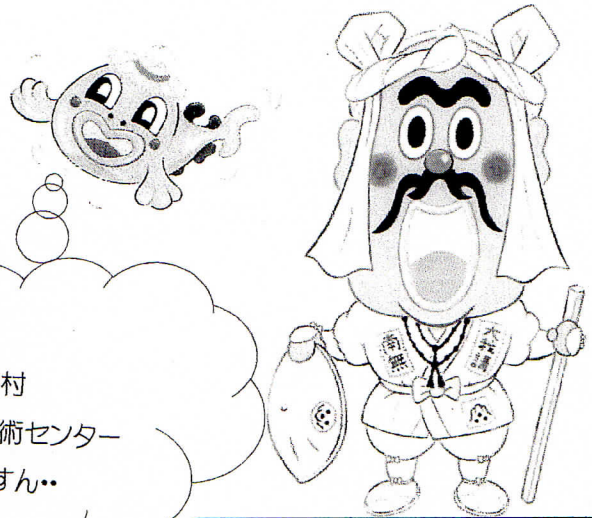
『現在では、高速道路が整備されて、交通事情がよくなった忍野村じゃが、江戸時代は、自給自足の
慎ましい生活をしておった。忍野村で生まれた誠に、重明と同じ教育を受けさせようと思っ
たら、到底無理な話じゃ。重明は、誠の将来を考えて京都へ帰る決心をしたと思うんじゃ。しかし、谷
村家は妹が婿を取り、嫡男がいたんじゃよ。運が悪いことに、重明が京都へ戻ったときには、す
でに父親は他界していたんじゃ。様々な意味で、重明は疎ましい存在だったんじゃよ。』

『講左衛門さん、今話してくれていることは、過去帳に載っていたでまっすん？』

『そうなんじゃ。過去帳と家系図を照らし合わせながら、調べたことじゃ。調査協力をしてくださ
った神應寺のご住職夫妻には感謝しておるんじゃよ。さて、重明の子を思う親心が、この悲劇を生
んでしまったことを考えると人生は皮肉なものじゃな。皮肉と言え、重明亡き後、妹の息子は2
0歳で亡くなっておるんじゃ。その後、重明の系統の谷村家は絶えてしまったんじゃよ。』

『悪いことをするといい結果は出ないでまっすん。次回はどんなお話をしてくれるでまっすん？』

『次回は、大我講の講中名簿にある人の子孫が、東円寺を訪ねてくれた話をしようと思っ
てるんじゃよ。』 『とても興味深い話でまっすん。楽しみでまっすん。』



クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でまっすん..

ふじのだいがこうざえもん 年齢不詳

職業 大我講の先達

(先達とは案内責任者)